

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくります。

としかん

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

旅の情報はこれだ！

時刻表から郷土料理まで

秋は旅行に最適なシーズンです。暑くもなく寒くもなく、天気は良く食欲も増し……。行き先の決まった方も、まだ迷っている方も、どうぞ図書館においで下さい。今回は、旅行を計画するとき、参考になる資料をご紹介します。

どこに行くか決まっていらない方は、雑誌架にある旅行雑誌をまず手にとってみてはいかがでしょう。特集記事や、その月ならではの企画が載せられていますので、旅行先を決めるヒントになると思います。図書館には『旅行読売』（旅行読売出版社）『旅』『るるぶ』（日本交通公社）が入っています。旅行先が決まったら、旅行ガイドブックを読んでみましょう。ガイドブックには、観光のポイントや交通・宿泊の情報がコンパクトにまとめられていてたいへん便利です。ガイドブックは、高書架の分類番号290～299の棚に地域別に集められています。『ブルーガイド』（実業の日本社）『トラベルJOY』（山と溪谷社）などの一般的なガイドブックのほか、より地歴的な解説が多い、『郷土資料事典・観光

と旅（人文社）『各駅停車全国歴史散歩』（河出書房新社）などの別のシリーズもそろっています。各地の紀行も同じ場所にありますので、あわせて読んでおくと旅のイメージがよりふくらむのではないかと思います。さて、次はどうやって行くか、交通手段を決めます。列車で行こうと思っている方には、一階カウンターの前に『時刻表』（日本交通公社）が置いてありますので、カウンターの職員におたずね下さい。また、分類番号686には鉄道関係の資料が集まっています。時刻表の活用法や、鉄道車両のシリーズなど、興味のある方はあわせてご覧下さい。ドライブ派の方には、分類番号682.9の棚をご案内します。全国の道路地図や、ルート別のドライブガイドなどがそろっています。次に、どこに泊まるかを決めなければなりません。分類番号689の棚に、旅館やホテル案内の資料が集められています。旅館の規模や設備、料金、現地までの交通などの情報のほか、館内や料理などを

写真で紹介している資料もありますので、複数の旅館を比較検討して決めることができます。また、民宿・ペンション・公共の宿や温泉宿など、それぞれのガイドブックも出版されていますので、目的や予算にあった施設を選べるでしょう。



旅のもうひとつの楽しみに、おいしいものを食べるということがあります。せっかく旅行に出かけるのですから、その土地の郷土料理を食べてみたいものです。低書架家事コーナー、分類番号596の棚に、各地方の郷土料理や食べ歩きに関する本がありますので参考にして下さい。『郷土料理とおいしい旅』（朝日新聞社）のシリーズには店の案内のほかに料理法も記載されていますから、予備知識として読んでみてはいかがでしょう。グルメ情報と名勝ガイドが両方載っ

ている『おいしい旅』（主婦の友社）のシリーズも便利だと思います。さあ、これで旅行プランの大きな骨組みができてきました。あとは、それぞれの目的に応じて個性的な味つけをしてみして下さい。旅行先で資料館などをたずねようと思っている方は、分類番号069の博物館ガイドや、706の美術館ガイドを、また、その土地のお祭りを見たい方には、分類番号386の棚に全国の年中行事・祭礼関係の資料があります。登山やハイキングを計画している方は、786の戸外レクリエーション資料の各コースガイドや、三階調査相談室の国土地理院発行の地図などを調べれば、より細かな計画を立てることができでしょう。（ただし、地図ケース内の地図は貸出・コピー共にできませんのでご了承下さい。）栃木県内の資料については、三階の郷土資料コーナーをご覧下さい。分類番号K 290には県内のガイドブック、K 596には食べ歩きの本がそろっています。K 600『名産・おみやげ案内（関東版）』（図書出版）は、おみやげ選びの参考になると思います。資料さがしで不明の点は、職員におたずね下さい。それではどうぞ楽しい旅行にお出かけ下さい。

ふるさとの本を紹介

郷土資料コーナー⑤

『栃木のわらべ歌』

―日本わらべ歌全集 5上―

栃木のわらべ歌編集委員会著、

柳原書店刊、二、四〇〇円。

本書は、わが国初のわらべ歌の集大成として、県別に編集される

『日本わらべ歌全集』の中の一冊です。主として明治期から昭和前期までのわらべ歌を、統一的に分類し、すべてに歌詞・楽譜・民俗

・歴史的背景・遊び方などの解説をつけた貴重な文献です。

本書によれば、栃木県の風土と伝統の特徴は、

(1)江戸中期以後、支配の細分化があつたため、栃木県人の結束心と統一文化の創造が阻害された。

(2)重要な街道や河川交通が発達していたため、江戸を直結し、江戸文化の直移入や文化の交流が

栄んであつた。

これが本県わらべ歌の特徴となっています。

また、「栃木わらべ歌の概観」として次の五点を挙げています。

(1)わらべ歌の共通性（本県独自のものが少ない）。

(2)歌詞の地域性（地名・方言が歌

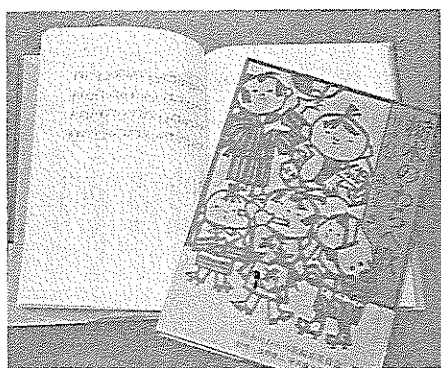
詞にあらわれる）。

(3)わらべ歌の混合と接合（別の歌がひとつの歌になる）。

(4)同一歌曲による遊びの混合（同じ歌が地域によって別の遊びに歌われる）。

(5)わらべ歌の伝播と歴史（全国共通のものが多く、歌詞や旋律に時代の影響がみられる）。

本書の編集のために、県内の教員が中心となつて編集委員会を組織し、各地のお年寄りなどから直接取材して、およそ十年かけて三百以上もの歌を採集しました。この中から郷土色の豊かなもの、貴重なものを絞り込んで百七十一曲が収められています。



内容を見ると、「かごめかごめ」「通りゃんせ」などポピュラーなもの、「ちゅうちゅうたこかいな」「へのへのもへじ」などことは遊び的なもの、殿様や女郎、郵便屋さん、日露戦争や東郷大将が出てくる時代色豊かなものなど、実にバリエーションに富んでいます。子どももの頃母から教られた歌や遊びの中で友だちと歌った歌が情景とともに思い出され、古い歌詞や旋律を口ずさむと、明治大正時代の雰囲気を実に味わうことができます。わらべ歌は私たちの心のふるさとであり、貴重な文化遺産でもあるのです。

今日、子どもの遊びが変化し、戸外で集団で遊ぶことが減ったことや、新しい歌がテレビを通じて瞬時に全国に流れていくことにより、伝統的なわらべ歌が歌われなくなり、地域の特徴を持つ歌や長く歌い継がれていく歌がなくなる傾向にあります。本書は、失われつつあるわらべ歌を愛し、永く伝承していきたいと願う編集者の熱意を伝えています。



児童書を借りたいな
と思っている
あなたに

Goob News!



子どもの本を借りる方のために、「かよい袋」というバッグを作り、貸与を始めました。

貸出券のナンバーを記入しカウンターに出して下さい。

②移動図書館では……

係の人に申し出ていただくだけでOKです。

と、これが図書館のニュー・フェイス「かよい袋」の紹介でした。

そして、もうひとつ

◎図書館からのおねがい（使用上の注意）

・バッグはひとり一枚の貸出です。失くしたりしない下さい。

・本の返却だけの時や、自分のバッグを持ってきた時は、かよい袋を返して下さい。

・他の人も使いますので、ていねいに使ってください。

みんな、わかってくれたかな。

どんどん利用してね！

A3. Q3.

どうすれば借りられるの？
①宇都宮市立図書館・中央公民館図書室・雀宮公民館図書室では……

「かよい袋貸出申込書」に氏名・住所・電話番号・

A2. Q2.

誰でも借りられるの？
貸出券を持っている人なら誰でもOKです。

A1. Q1.

「かよい袋」ってなあに？
本を入れる黄色いバッグです。雨の日や、本をたくさん借りたけれど、入れるものを持って来なかった時などに利用していたくものです。

愛について——舟崎靖子氏

平成2年度「子どもと子どもの本をつなぐ講座」第1回が9月2日(日)1時30分より、東公民館を会場に行われました。「トンカチと花將軍」「もりのゆうびんきょく」など、多数の心あたたまる童話を発表されている舟崎靖子氏を講師に迎え「愛について」というテーマで語っていただきました。

「子どもと子どもの本をつなぐ」というテーマに、できればとらわれないという講師のご希望により、話は子どもの本を越えたより大きな「愛」をテーマに行われました。

36才のときにガンの宣告を受け、42才で明るい輝きを遺して去っていった友人のホスピスでの最期の人々が舟崎氏に与えてくれた大きな贈り物、それは「愛すること」でした。彼女との思い出話を縦糸に、「愛」の大切さを横糸に語られた話は、児童文学の粋をこえ、聞く人の胸にしみ入るものでした。

「ものとの隙間、心と心の隙間、人と人との隙間を生きる人間にとって、愛されることは限界があるけれども愛することにはかぎりがない。人生はいかに愛さ



れたかより、いかに愛したかが問題なのだ。」生きとし生けるものへの愛。それが氏が友人からもらった贈りものであり、氏の作品、さらには人生を支えているものだと語られました。

最後に、そうした「愛」を感じとれるような作品を紹介してほしい、という受講生からの質問に対し、「愛を感じているおかささん自らが本を手にとつて読んでみてじっくりする本。それを子供にも読ませてあげてください。それはその時々によって、また人によって、違ってくるはずですよ。」と結ばれました。

講座を受講できなかった方々は、当日の話のベースになっている舟崎氏の著書「星空の紙飛行機——今は亡き友へ綴った40通の手紙——」(講談社89)をお読みくださるようおすすめします。図書館にもあります。

学ぶ楽しさ／知る喜び／ 秋になりました 新しい講座が始ります

〈講座・学問の窓〉は、さまざまな分野で活躍されている第一線の研究者を招いて、その最先端の研究をわかりやすく解説していただきます。

秋のひととき、あなたも、学ぶ楽しさ、そして、知る喜びを味わってみませんか。

興味を持って学んだ後には、快い疲れと深い充実感が残ります。

日ごろ関心を持っていることがいろいろあっても、そのことを改めて学ぶ機会は、意外に少ないものです。

開かれた図書館として、多くの市民に学ぶ機会を提供することを目的に、〈学問の窓〉を開講することになりました。

その分野においては知らない人はいないという有名な存在でも、一般的にはそれほど知られていない存在の方もいます。

この講座のもう一つの目的は、そういう方々を広く市民の皆さんに紹介することです。

どうぞ〈学問の窓〉にご期待ください。

きつと新しい発見や出会いがあるでしょう。

小説の中の宇都宮

「網走まで」…志賀直哉著

宇都宮の友に、「日光の帰途にはぜひお邪魔する」といつてやつたら、「誘ってくれ、僕も行くから」という返事を受け取った。それは八月もひどく暑い時分のこと

で、自分は特に午後四時二十分の汽車を選んで、とにかくその友の所まで行くことにした。先の客車は案の定すいていた。二十六・七の色の白い髪の毛の少ない女の人

が一人をおおい一人の手を曳いて入って来た。汽車はすぐ出た。しばらくして自分は、「どちらまでおいでですか」と訊ねた。「北海道でございます。網走とか申す所

だそうで大変遠くて不便な所です」。「なんの国になつてますかしら?」「北見だとか申しました」「そりゃあ大変だ。五日はどうしてもかかりましよう」。汽車は小山を過ぎ、小金井を過ぎ、石橋を過ぎて進んだ。窓の外はようやく暗くなつてきた。女の人が二枚端

からこの次になさいという。この次は宇都宮で八分の停車をする。

汽車は停まった。自分はすぐ扉を開けた。男の子はおりた。「じゃあ、私はここでおりますから」といった。「いろいろ、ありがとうございまして」と女の人は丁寧にお辞儀をした。人ごみの中を並んで歩き出した時、「恐れいりますが、どうかこの端書を」こういつて懐

から出そうとするが、博多の帯が胸で十文字になっているので、なかなか出せない。女の人はちよつと立ち止まった。吾々は、プラットホームで、名も聞かず、また聞かれもせず別れた。

自分は端書を持ったまま停車場の入口へ来た。そこに函のポストが掛かつてあった。自分は端書を読んでもたいような気がした。また読んでも差し支えないというような気もした。自分はちよつと迷ったが、函へよると、名宛を上にして、一枚づつそれを投げ入れた。

投げ込む時ちらりと見た名宛はともて東京で、一つは女、一つは男名であった。(抜粋) 明治四三年四月 二七歳「白樺」に発表。 旺文社文庫より

講座・学問の窓

いよいよ新しい講座がスタートします。

日時 10月7日(日)、10月28日(日)、11月18日(日)

午後1時30分～3時30分

講師 小池清治氏(宇大助教授)

テーマ「日本語とはどういう言語か―国際化時代の日本語―」

場所 市立図書館3階集会室

申込み 9月21日(金)午前9時30分から受付を始めます。

子どもの本の入門講座

・第四回
・第五回

6月に第一回、第二回を開催し好評だった連続講座の第四回と第五回を次のとおり開催します。

「おはなし」を勉強している方、実践している方は是非ご参加ください。

日時 第四回：10月13日(日)

第五回：11月10日(土)

時間は午後1時30分～3時30分

場所 市立図書館3階集会室

講師 根岸貴子氏(東京子ども図書館職員)

テーマ 第四回：子どもとおはなし

第五回：おはなし会

第49回 落語会

落語会をのんき亭喜楽一門会の協力により開催します。

生の落語を録音して、視力障害者の皆さんに、郵送貸し出しをしています。寄席では多くの皆さんの笑い声が必要としています。たくさんのご来場をお待ちしています。

入場は無料です。

日時 11月17日(土)

午後3時から

場所 市立図書館

3階集会室

ニュースコーナー

おながい
図書館資料は大切に

最近、借りた本の中に、書き込みがあつた、毛髪が多数入つていたり、肝心な部分が切り取られていたなどで、不快な思いをさせられたという声が届いています。

図書館の資料は、あなたの次のも、また利用する人がいます。

汚さず、破らず、大切にご利用くださるようお願いいたします。

ボランティアのみなさん
ありがとうございます

点字・声の図書製作
状況(2年7・8月)

▽点字図書 「きつと明日は」「戦争(上)」「ほか11タイトル44冊。

▽声の図書 「子ども達の隣り」「英語の通訳」ほか19タイトル97冊。

郵送貸出利用状況(7・8月)

▽点字図書 17人 100冊

▽雑誌 40人 40冊

▽声の図書 43人 478巻

▽雑誌 67人 1075巻

▽墨字本 19人 73冊

寄贈

交通教育を考える会(ケーススタディ・高校における交通安全教育、インナートリップ青少年センター(ニューライフアドベンチャー・全国高校生の主張)、こだま光雄(こだま光雄集、光星社2ウエイコミュニケーション)、相馬栄治(東部第43部隊の歩み、佐藤貞助(生命の実体、佐伯尤(人間・風土と社会科学、関平(全国中学校卓球20年誌、朝日新聞社社史編集室(朝日新聞社史明細編、永井輝(幻の自由教育―千葉師範附属小の教育改革)他

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時
ただし、児童図書室は午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日
国民の祝日

○貸出は
図書・紙芝居
レコード・CD
ビデオ・16ミリフィルム
5点 5点 5冊

○講座の問合せ・申込み
電話または直接図書館へ
電話(36) 0231

貸出状況

区分		2年7月	2年8月
登録者数		146,368人	147,431人
貸出人 数	館内	17,907人	21,043
	館外	2,599	2,131
	中央公民館	954	1,023
	雀宮公民館	1,117	1,250
	合計	22,577	25,447
貸出冊 数	館内	59,059冊	66,966冊
	館外	10,959	9,081
	中央公民館	3,232	3,468
	雀宮公民館	4,359	4,777
	合計	77,609	84,292

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	①	②	3	4	5	6
7	⑧	9	⑩	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	⑳	23	24	25	26	27
28	㉑	30	31			

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				①	2	③
4	⑤	6	7	8	9	10
11	⑫	⑬	14	15	16	17
18	⑱	20	21	22	⑳	24
25	㉑	27	28	29	30	